

猩々緋陣羽織



藩記録書



軍配



火縄銃



萬古清風

山岡鉄舟書



月

伊藤仁斎維禎書



一笑百花香

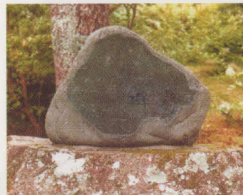
海舟勝安芳書

本丸内ご案内



宗教法人 懐古神社

懐古神社社地(本丸北から三の門まで)は、廃藩後小諸在住の旧士族が資金を集め、払下げを受けたもので、明治13年4月、荒れ果てた城址を整備し、花木を植え、懐古園とするにあたり、本丸内に懐古神社を創建しました。(祭日は4月24・25日)祭神は、もと本丸東北紅葉ヶ丘に城の鎮守神として祀られていた天満宮(菅原道真公・天神様)と火魂社(火之加具土命・荒神様)及び藩主牧野候の霊を合祀しています。



山本勘助愛用の鏡石

天文年中、武田信玄が小室(諸)城を拡張整備したとき、その巨山本勘助が常に清鑑愛撫したと伝えられています。

その他本丸内には

- ・藩領境界の石標
- ・牧野康満(三代藩主)句碑
- ・神代桜
- ・懐古神社社務所があります。



懐古園の碑

勝海舟題額
中村正直撰文



佐々木如水の碑

山岡鉄舟題額
高橋泥舟書



小諸城天守台

自然な河原石を用いた野面積の石垣は、見事な迫力をみせている。天守閣は寛永三年落雷で焼失したといわれています。

宗教法人 懐古神社付属

懐古館



開館時間 AM 8:30~PM 5:00

- ・3月(第3週) ~ 11月... 毎日開館
- ・12月 ~ 3月(第2週)... 毎水曜日休館
- ・年末年始(12月29日~1月3日)... 休館

小諸駅より徒歩5分 小諸城址懐古園内
小諸市丁311 TEL 0267-23-6419

〒384-0804



重要文化財 小諸城・三の門

小諸城 (別称：白鶴城・酔月城)

文献上に小室(諸)の名が現れたのは養和元年(1181)木曾義仲の武将小室太郎光兼が現城址の東北の宇当坂に館を築いた事に始まります。

その小室氏が衰退し、佐久郡岩村田より大井氏が移り、長享元年(1487)大井光忠の代に鍋蓋城(大手門北側)が築かれ、その子満安(光為)が、現在の二の丸付近に乙女城(白鶴城)を築きました。大井氏の鍋蓋・乙女城は天文年間甲斐の武田信玄によって攻略され、その武将山本勘助と馬場信房によって城の縄張(設計)がなされ、およそ現在の城の原型が作られました。武田氏滅亡後は、織田・北条・徳川の争奪がくり返され、やがて徳川の所領となり、依田信蕃が城代、その子康国・康勝兄弟が領しました。天正18年(1590)豊臣秀吉が天下統一をなし、小田原城攻めの軍功により、仙石秀久が5万石で入封、城の大改修と城下町を整備し、堅固で近代的な城を完成させました。仙石秀久・忠政親子の代に建物の多くが作られ、以降徳川忠長(城代を置く)松平憲良、青山宗俊、酒井忠能、西尾忠成、石川乗政、石川乗紀と続き、元禄15年(1702)越後与板より牧野康重が1万5千石で入封し、康周、康満、康隆、康傳、康長、康明、康命、康哉、康済(康民)と続き、明治の版籍奉還まで約170年、10代にわたって小諸を領しました。

※小諸城三の門は元和元年(1615)仙石忠政が創建、寛保2年(1742)戊の満水の大洪水によって流失し、明和2年(1765)牧野康満の代に再建されたものです。(国重要文化財)

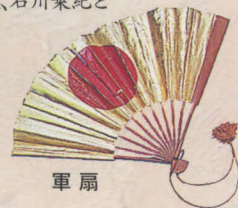


大紋長袴



小諸藩第九代藩主
牧野康哉公着用具足

康哉公は江戸末期の幕政に参画し、井伊大老のもとで若年寄を勤めた



軍扇



喜内様(徳川家光公)・阿福様(春日局)木像 左甚五郎作

喜内様とは江戸城大奥での呼び名で、三代將軍徳川家光公(幼名竹千代)のことです。阿福様とは春日局で、父は齊藤内蔵介利三といい、稲葉佐渡守正成に嫁しましたが、慶長9年家光公生誕の時召出され、その乳母になりました。忠義の志深く、慎み深く家康公には厚く信頼されておりました。

二代將軍秀忠公夫人浅井氏(お江の方)は家光公の弟忠長公の柔和な性格を愛し、弟を嗣子とされたい思いがあるのを見て、春日局は家光公のため尽力し、伊勢参宮にことよせひそかに駿府に行き家康公にその由を申し上げ、跡継ぎは総領の家光公になりました。家光公は三代將軍になられ、その乳母春日局の慈愛と功を忘れないため、時の名工伊丹甚五郎(左甚五郎)に命じてこの像を彫らせ常に側におかれたといひます。家光公の側室阿玉の方(桂昌院)が綱吉公(五代將軍)を誕生させたとき家光公は、綱吉公養育の手本にする様にと桂昌院に渡しました。

小諸藩初代牧野康重公と桂昌院とは伯母・甥の間柄で、幼い頃より寵愛を受け、のち康重公が牧野家に養子となったとき、この木像を賜り、永く牧野家の家宝となりました。



三ツ柏紋入 大小拵